



講座のアピールポイント

産婦人科は周産期・婦人科腫瘍・生殖内分泌・女性ヘルスケアの4分野に大別されます。全ての領域で新しい技術・知見を取り入れて診療にあたっております。

① 周産期分野

埼玉県地域周産期母子医療センターとして、近隣医療機関よりハイリスク妊娠を受け入れ、他科等とも連携し周産期管理を行っており、緊急母体・産褥搬送も年間50件程度受け入れています。また、出生前遺伝学的検査（羊水検査・NIPT等）も行っております。

② 婦人科腫瘍分野

初期癌には「可能な限り低侵襲な癌治療」、進行・再発癌には「諦めない癌治療」を理念として診療しています。年間600-630件の婦人科手術の内、160-170件が悪性腫瘍の対する手術です。低リスク子宮体がんに対しては低侵襲であるロボット支援下手術を年間30件行っています。また、進行卵巣がんに対しては、横隔膜や腹膜切除を含む拡大根治術を行っています。一方、良性疾患に対しては子宮鏡下手術（内膜焼灼術MEAを含む、年間70件）や腹腔鏡下・ロボット支援下手術（年間90-100件）を積極的に行っております。

③ 生殖内分泌分野

当院ではリプロダクションセンターが主となり治療を行っております。手術が必要な場合は、リプロダクションセンターと協力して行っております。

④ 女性ヘルスケア分野

更年期障害では患者さん一人一人の症状を吟味し、ホルモン補充療法（HRT）や漢方療法等を行っております。また、骨盤臓器脱（子宮脱、膀胱癌など）の保存的治療・手術療法も行っております。

講座研究紹介

豊富な臨床データを生かし、国内他大学との共同研究にも積極的に参加しています。

1. 婦人科悪性腫瘍に対する多施設共同臨床研究（JGOG、GOTICなど）。
2. 婦人科悪性腫瘍に対する新しい診断法・治療法の開発に関する研究。
3. 婦人科悪性腫瘍の予後を規定する因子に関する研究。
4. 婦人科悪性腫瘍の薬物治療の有害事象予測に関する研究。
5. 妊娠高血圧症候群の病因・病態および遺伝・環境交互作用の解明と遺伝子型別介入研究（獨協医科大学公衆衛生学講座との多施設共同研究）

上記に挙げた研究は当講座で行っている研究の一部になります。それ以外にも実際の患者さんを対象とした臨床研究を数多く行っており、成果は国内外の学会や研究会で発表を行うとともに、国際的な学術雑誌に論文として報告しております。